

世界旅打ち気分

●第69回・克蘭ボルンとモーニントン

須田鷹雄



写真1) 3つのコースが同時に視界に入る
克蘭ボルン競馬場



写真2) モーニントン競馬場の芝生エリアは
ピクニック気分で楽しみたい



写真3) 来場者には子供連れも多い

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載もオーストラリアの競馬場の登場する頻度が高くなっているが、なにしろ筆者の踏破場200強のうち、90以上がオーストラリアなのでどうしてもそういうことになってしまう。

今回はオーストラリアのビクトリア州から2場を紹介しよう。オーストラリアの競馬場は開催の重要度によってメトロ・プロヴィンシャル・カントリーとカテゴリーが分かれているのだが、その他にアマチュア騎手専用のピクニック開催もある、なぜかビクトリア州だけはプロヴィンシャルがなく、メトロとカントリーという構造になっている。ただ最近になって、見習騎手の減量特典を計算する都合上「実質プロヴィンシャル」という競馬場・開催が指定された。今回の2場はいずれもその「実質プロヴィンシャル」である。

ひとつめは、克蘭ボルン競馬場。メルボルンの中心部から車だと1時間ほどだが、電車とバスだとよほど乗り継ぎが良くない限りは1時間半くらいかかってしまう。

この競馬場の南側には「克蘭ボルントレーニングコンプレックス

ンブル。開催の入場者に応じて使うスペースが決められている。ハーネスのヒラ開催時は2階だけを使用していたが、カフェではちゃんとしたステッキを出すなど、飲食はしっかりしていた。

今回ご紹介するもうひとつの競馬場はモーニントン競馬場。ここはコーフィールド競馬場などを運営するMRC(メルボルンレーシングクラブ)の経営する競馬場だ。

レンタカーを運転できない人にとって、アクセスは正直良くない。筆者がはじめて行った06年は鉄道駅から1日1往復だけ無料送迎バスがありそれを利用したのだが、いま競馬場のHPを見るとなくなっているようである。いまにして思えば無料バスに乗った駅はランクストン線の終着駅・ランクストン駅だったのだと思うが、そこから競馬場に行くとなると路線バスに35分乗り、さらに10分ほど歩かなくてはならない。夏などはかなり厳しい。

ただ、着いてしまえば競馬場は立派だし、メンバースhipに加入していなくても居場所がそれなりにある。(写真2)を見ていただくと

ス」という調教施設が併設されているのだが、コースとしては調教施設のほうがよほど立派。いちばん外の芝コースは調教コースのほうで周長も長いし、形としても競馬場のほうは1〜2コーナーが大回りで3〜4コーナーが窮屈というイビツな形。それに比べて調教コースのほうはきれいな楕円形をしている。競馬場のコースは阪神外回りを全体に小さくしたイメージだが、それを右回りではなく左回りに使うのだからおかしな話である。

そして、克蘭ボルン最大の特徴は、ハーネスレース(繋駕競走)とグレイハウンドレース(ドッグレース)も行われていることだ。オーストラリアはちょっとした町だとサラブレッド・ハーネス・グレイハウンドと3競技揃っていることがけっこうあるのだが、1箇所に3競技まとまっていることはまずない。ハーネスのコースの中にグレイハウンドがあるのはよく見るが、サラブレッドとグレイハウンドの同居はすぐに思いつかないし、3競技同居は克蘭ボルンだけではないだろうか。

筆者はハーネスの開催日にしか

スタンドとコースの間に広い芝生のスペースがあることがお分かりいただけるだろうが、ここはもちろん非メンバーが利用可能なエリア。奥に見えるスタンドの2階はメンバー用の施設だと思いが、1階の右側には一般入場者用のバーなどもある。

さらに一般エリアにはちょうどした移動遊園地が来たり、フードトラックが来たりもする。(写真3)をよく見ていただくと小さな子供を連れた入場者が多いところにお気づきいただけるだろうが、気候の良い時期の開催はファミリー層が多く、雰囲気も至ってカジュアルだ。日本の競馬場に行くのと同じ服装でよいというか、夏場ならTシャツに短パンで全く問題ない。できればレジャーシートを持っていくなどしてピクニック的に楽しみたいし、ビール好きの方などは特に楽しめそう。

この号で伝えるのはいまさら間に合わないよ」というかちよとタイミングの悪い話だが、モーニントンはメルボルンカップに近い時期に開催が組まれることが多い。今年でいうと11月5日がメルボルンカップで、2日前の3日にモーニ

行ったことがないので、その時の写真(写真1)をご覧ください。ハーネスのレースが行われているが、手前の芝コースがサラブレッド用である。奥にはグレイハウンドのコースと、ゲートが見える。このように外からサラブレッド、ハーネス、グレイハウンドと三重丸状態にコースが作られているのである。

3競技の開催日は基本的に別々だが、年に一回だけ「3競技を全部やる」という開催がある。一度行ってみたいと思うのだが、なかなかタイミングが合わず実現していない。

先ほど克蘭ボルンは「実質プロヴィンシャルのカントリー」であることを紹介したが、メトロ開催として行われるものもある。今年だと11月23日土曜の開催がそれで、メインはリステッドの「克蘭ボルンカップ」。オーストラリアではカントリーやピクニックにも年一のお祭りである「カップデー」があるが、克蘭ボルンの場合はやや格上で、レースはリステッド、開催はメトロということになるようだ。

位置付けとしてはそこそこの競馬場だが、スタンドは2階建てでシ

ントンの開催がある。

今年の場合にはレンタカーの運転ができれば、11月1日ムーニーヴァレー↓2日フレミントン(ダービー)かピクニックのヒールズヴィル↓3日モーニントン↓4日バラフラットもしくはメルボルンカップの市内パレード↓5日フレミントン(メルボルンカップ)↓6日カインントン(カップデー)といった盛りだくさんの旅程を組むことが可能。来年はぜひ実行してみたい。

ちなみに、メルボルンカップ直前のモーニントンではペンシユロカップというオープン特別的なレースがあるのだが、着飾った若者などもけっこう来場し、競馬場の一部だけが日本とは違った雰囲気を作る。

日本のようにいかにも競馬が流行っているというわけではないのだが、なぜか若者が着飾って競馬場に来てくれるというのは羨ましいところ。ただ彼らが酒を飲み過ぎてめんどくさい絡み方をしてくることはある。前述した06年の初回訪問時は、最終レース後に若い女の子どうしのマジの殴り合いも見た。さすがにあれば日本では見ない光景だ。